



## 生きがいワーカーズと市民活動

NPO法人ASUの会 理事 上田篤子



OMA

女性経営者シリーズ

人生90年時代を迎えつつある中、ASUの会は堺市から「生きがいワーカーズ（シニアの生きがいと就労支援を結びつけた補助金制度…1団体100万円限度、10人以上で堺市在住の60歳以上のシニアが過半数いること、活動拠点の確保等）」の事業立上げ業務を平成21年度から受託し、これまで5団体が誕生している。

これらの団体は、堺市が実施する生涯学習や農業サポーター等の講座修了生やシニアの人たちが培ってきた経験や技術を活かして、仲間と生活者の視点から暮らしやすいまちづくりや地域コミュニティの課題解決に取り組むため事業を立ち上げている。シニアが生きがいを市民活動に見出すことも介護予防につながるのではないかと。

この制度は大阪府で平成11年度から実施され、13年度に堺市で第1号の生きがいワーカーズ団体が誕生し、20年度の制度終了までに堺市で14団体が誕生している。現在、当制度は大阪府下で堺市だけである。21年度以降の団体を加えて19団体が活動し、定期的にASUの会は既存団体と交流を図り、下記に紹介する「まつり」開催が決定した。

事業分野は、シニア・子どもの交流サロン・教室、野菜の栽培・販売、介護の応援・食事サービス、手づくり品の製作・販売などであり、時代の変化に応える分野に変容するなど持続可能な努力をしている。しかし、問題は仲間の高齢化に伴う先行き不安、人手不足、次世代の担い手不足、販売や財政面、活動拠点等の課題を抱えている。そこで、15団体が参加して、昨年11月の8日間「生きがいワーカーズまつり」を初めて堺市庁舎ロビーと市民交流広場で開催した事例を紹介したい。

- ①4月に実行委員会を作り、役割や日程計画を決め、ASUの会が事務局を担当することになった。
- ②チラシ5,000枚の印刷等、共通のパネル展示、

屋外催事のテント設置等の開催費用を賄うため、堺市の「ふれあい助成金20万円」を申請し交付された。実行委員会は7回開催した。



- ③8日間のパネル展示に来場者約260人に当団体のPRができ、1日だけの屋内外の催事（コーラス、紙芝居、野菜・手づくり品等の販売、手づくりの体験等）では約350人が来場。終日、野菜や手づくり品の販売で賑わっていた。
- ④今後の運営等の活動資金として売上金の1割と、参加1団体1,000円の協力金を積み立てた。
- ⑤12月、実行委員会最終日の「ふりかえり」で有意義に意見交換が行われた。しかし、開催はメンバーが高齢化している団体には少し重荷になったようである。一方、会場に準備したチラシは思いのほか来場者の持ち帰りが多かったことで、成果があったと捉えている。

### プロフィール

2004年 現役時代 卒業

2007年 NPO法人ASUの会副理事長就任

2009年 同 理事 現在に至る